

四島交流訪問

四島交流訪問

北方四島交流事業は、北方領土問題の解決までの間、相互理解の増進を図り、領土問題の解決に寄与することを目的として、日本国民と北方領土に居住するロシア人との間の旅券(パスポート)・査証(ビザ)なしによる相互訪問事業です。『北方四島交流訪問事業』は、日本国民が北方領土を訪問する事業です。

令和元年度における四島交流訪問実施状況

区分	実施月日	訪問先	団員数
第1回(一般)	5月10日～5月13日	国後島	65名
第2回(一般)	5月24日～5月27日	色丹島	65名
第3回(後継者)	8月23日～8月26日	国後島	44名
第4回(後継者)		色丹島	20名
第5回(教育関係者・青少年)	9月13日～9月16日	択捉島	64名
計			258名

※北方四島交流北海道推進委員会主催分

第1回(一般) 国後島訪問



今年度初めてとなる訪問団。友好の家では民族衣装を身にまとった現地のロシア人が塩とパンで歓迎してくれました。



国後島の郷土博物館を見学する様子です。博物館には国後島と色丹島の自然や動物の紹介や、アイヌ民族の家具や道具も展示されています。



古釜布(ふるかまっ布)墓地での墓参の様子です。四島交流訪問では、住民との交流のほか、墓参も行われます。



住民交流会では、「しべつとどわら太鼓保存会」による太鼓演奏や、ロシア人島民の太鼓の体験会も行われました。

第2回（一般）色丹島訪問



根室市文化協会の訪問団員から、絵画や陶芸作品などを寄贈しました。現地島民からはとても好評でした。



水産会社ギドロストロイの水産加工場を視察しました。北方四島で最大規模の工場内には最新の加工設備が並んでいました。



色丹島の穴澗消防署の視察では、施設内の見学のほか、実際の放水の様子を見せてもらいました。



斜古丹墓地のクリル人墓地において、団員である札幌アイヌ協会副会長による「イチャルパ」(アイヌ式の供養)が行われました。



スポーツ施設「シコタンアリーナ」の見学の様子です。施設内はとてもきれいでトレーニングルームやシャワー室等も完備されていました。



レストランでの夕食交流会の様子です。みんなで食べて、踊って、大いに盛り上がりました。

第3回（後継者） 国後島訪問



ロシア語通訳によるロシア語講座の様子です。翌日の住民交流会やホームビジットに備えて、簡単なロシア語を勉強しました。



現地のロシア人講師による絵画教室では、風景画などを描いて、みんなで作品を見せ合いました。



ホームビジットの様子です。どこの家庭でも歓迎され、訪問団員達はおいしいロシア料理を食べながら、交流を深めました。



国後島にある正教会を視察しました。きれいに装飾された教会で訪問団はお祈りを捧げました。



国後島唯一の空港「メンデレーエフ空港」を見学しました。



「ローソク岩」を視察しました。浜辺にそびえ立つこの岩は、現地の方に「悪魔の指」と呼ばれています。

第4回（後継者） 色丹島訪問



色丹島に上陸した訪問団は、ウーソフ地区長を表敬訪問しました。お互いに挨拶を交わし大歓迎されました。



色丹島正教会の様子です。国後島の教会と違い、装飾の色合いなど落ち着いた雰囲気教会でした。



穴澗村展望広場を視察しました。このハート型のオブジェは絶好の記念撮影スポットです。



住民交流会では、今後取り上げるテーマについて意見を交換しました。今後は、「観光」をテーマとし、対話を重ねることが決まりました。



夕食交流会の様子です。現地の伝統的な衣装をまとい歌やダンスで交流を深めることができました。



色丹島出港の様子です。現地の方々が見送りに駆けつけてくれ、別れを惜しみました。

第5回（教育関係者・青少年） 択捉島訪問



紗那墓地での墓参の様子です。訪問団全員で線香を手向け手を合わせました。



学校訪問では紗那学校を訪問し、ロシア料理教室や考古学体験教室などを体験し、生徒との交流を深めました。



学校訪問での発表会の様子です。伝統衣装を身につけ、現地の子ども達と一緒に踊りました。



ホームビジットの様子です。現地の子ども達とはすぐに打ち解け、有意義な時間を過ごすことができました。



スポーツ交流の様子です。団員による少林寺拳法、現地の子どもたちはまだ始めて間もない柔道を披露してくれました。



ヴァンナチカ温泉の見学の様子です。実際に水着を着て温泉に入っていた団員もいました。